

前 奨 連

前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 笠原 弘

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元氣21
3階

☎(027) 210-2198

前奨連会長就任にあたって

前奨連会長 笠原 弘

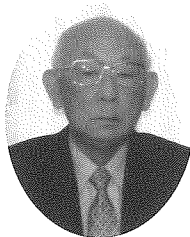
前橋市の生涯学習奨励のスタートは一九八六年度に生涯学習推進本部が発足し、続いて生涯学習奨励員制度が制定されてからの事でした。

その後、一九九〇年に前橋市生涯学習奨励員連絡協議会（前奨連）が発足しました。この前奨連は奨励員同士の連携とスキルアップを目的に自主的に結成された組織であります。

以降三十九年が経過し現在にいたるわけですが、その間に幾度かの市町村合併により組織が拡大し、又、それを支えてきた多くの先輩方のたゆまぬ努力の結果が今日の前奨連であります。

現在、前奨連は中学校区をベースにそれを一地区として二十地区、二百八十四人の奨励員から成る組織です。これを非力な私が引き継いで行く事は誠に心もとない限りですが皆様のご支援ご協力を頂きながら精一杯努めていく覚悟です。よろしくお願いたします。

奨励員活動は自治会組織とともに



前奨連の年中行事である「生涯学習フェスティバル」「五ブロックに分かれて行う実践研究会」「奨励員セミナー」「年三回発行の広報紙」等、毎年滞りなく行われてきております。

その内容も年々、充実してきているようにも思っています。

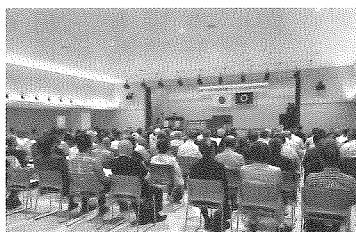
こそ奨励員二百八十四人の方々の

協力の賜物であります。とはいえ、今日でも時々一部の奨励員さんから漏れる言葉があります。

それは「奨励員として何をすべきか分らない」「奨励員一人では何も出来ない」「何か行うにしても予算無し」・・・というような言葉です。

生涯学習奨励員の活動は奨励員単独で行うものではなく、自治会活動と一体化して、あるいは自治

前奨連総会 新役員体制でスタート



令和7年度 前奨連総会

生涯学習奨励員連絡協議会の総会が五月二〇日、中央公民館三階ホールで奨励員百三十人出席のもと開催されました。

はじめに大

井会長より「地域の連携を積み重ねた諸先輩方々の三十九年の伝統をさらにつなげ、地域を知り魅力を発見し、人のつながりを大切にしながら共に歩もう」とのあいさつがありました。つづいて生涯学習推進本部長の小川市長より「前橋市は生涯学習活動が盛んです。一層の充実のため、皆さんのお力添えを」とのご祝辞を頂きました。

本総会では、先の理事会において選出された令和七年度の新役員が承認されました。

会長に笠原弘（大胡地区）副会長中山洋子（芳賀地区）・持田みね子（下川淵地区）事務局長森村茂美（永明地区）

会組織に溶け込んで行くべきものと考えています。

例えば、従来から行われている自治会行事に生涯学習的要素を取り込んでいく、あるいは奨励員のアイデアで新しい行事を行う場合は自治会全体の

行事として取り組むなどという事。

一方、この事は奨励員を受け入れる自治会組織にもご配慮頂く事が肝要かとも思っています。

こんな事も念頭に置きながら私の前奨連会長の任務を果たしていくつもりです。

会計 吉岡一男（桂萱地区）監事 持田保（二中地区）・小林勇（富士見地区）の新体制となります。なお退任した大井前会長は顧問に就任しました。

役員承認に続き、令和六年度事業実績・決算報告。令和七年度の事業計画・予算について提案され承認されました。

本年度の事業については前年度事業を踏襲した形となりましたが、より実効性のあるものとして、詳細については今後検討していくものとしています。またそれに付随する予算の報償費や委託費は減額されました。

総会後は高崎商科大学の熊倉浩靖特任教授による講演会が開催されました。

委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

同日同ホールにて委嘱状交付及び感謝状が贈呈されました。

今年は委嘱替えの年にあたり、令和七年四月一日から令和十年三月三十一日までの三年間の任期で各地区の奨励員二百八十四名が、本部長より委嘱状を交付されました。

また三期九年以上継続して生涯学習推進のために活動をされ、退任された十八名の方に感謝状が贈呈されました。

地区だより ⑤1

誰もが安全安心な町

清里地区生涯学習奨励員

石 関 修

現在、清里地区において「心豊かで活力のあるまちづくり」をテーマに、誰もが安全に安心して暮らせる地域づくりを目的として、助け合いや自主・自立性の強化を図るべく積極的な活動が行われています。

活動内容は、清里地区をより良くするために、地域に必要なことの施策具現化や地域の課題解決に向けての取り組みに対する計画や体制づくりを行っています。具体的には下記の七つの部会を設けて、各部会が精力的に活動を展開しています。

七つの部会の精力的な活動

①花いっぱい運動部会

地域を花でいっぱいにして、オープンガーデンや花壇の花を通じて地域の環境美化と交流を図っています。



花壇



環境美化

②食育部会

特に枝豆・玉ねぎ等清里地区の特産を活用し、子どもたちに向けて清里の良さや伝統を伝えています。

③まちづくりだんべ部会

多くのイベントに創作だんべ踊りで参加し、地区外の人に清里地区をアナウンスし地域を活性化しています。

④事務広報部会

まちづくり広報を定期的に作成・配布し、清里地区の様々な活動を写真展示を含め地域の人に提供しています。

⑤子ども八木節部会

小学生を中心とした地域の子どもたちに伝統芸能である八木節を継承、各イベントや施設で披露しています。

⑥ふるさと祭り部会

二年に一度開催する清里ふるさと祭りが、安全で楽しい祭りになるよう企画準備を進めています。

⑦黒子部会

地域交流の場である種々のイベントのサポートを裏方から行い、地域活性化の屋台骨を支えています。

以上、今後もこれからの活動に寄与・連携しながら、まちづくりの更なる発展を推進していきたいと考えています。

生涯学習奨励員。いま、わが町で

「遊び」で創るコミュニティ 融和と共生

粕川地区粕川町田面区奨励員

木村 幸雄

縁あって、還暦を迎える前に、粕川町田面（たなほ）に転住して早十有余年。

田面という名は「西田面・前皆戸・上東田面・下東田面・一日市（ひといち）」と五つの地域の総称で、行政上の町内区画名ではなく、通称田面とよばれている処です。

その五つの地域は、各々郵便番号も割り振られ、またそれぞれの地域で神社仏閣（像）等に係わる故事来歴の催事が毎年行われています。

田面全域のイベントとしては、自治会主導による敬老慶祝会と、いきいきサロン程度で、そのサロンも西前（西田面と前皆戸）と東（上東田面・下東田面・一日市）サロンに別れ離れ、簡単に一つにまとまらない特異な田面なのです。

私儀、この様な地区の自治会役員のお歴々が「断つての願い」と生涯学習奨励員の依頼に來られたが、新参者の私にとっては、突然の話しに思案にくれるも、この地に青山有りと腰を据えたからには、頼まれ協力するのもやぶさかでない

いと恐々承伏し、奨励員を受けいれました。

その特異な田面の地域社会をより一層の活性化を目指すには、老若男女多くの区民が喜び、楽しく集える環境作りを考え、また今迄にない「遊び」をテーマにしたイベントを行い、例えば「梅干しの種飛ばし」とか「大声音圧」で競い合う誰もが参加出来る大会等々です。

そこで「私が田面のナンバーワン」を決める単純明快な先ずは「遊び」から始め、更なる地域交流の増進と連携を深め、自治会及び各種団体役員等の協働の下、何とか今秋の開催に向けて、只今企画発案の真つ最中です。

なお、田面の生涯学習奨励員一年生、且つ新参者の企画発案を取り入れて貰い、今秋の「私が田面のナンバーワン」大会が実施の運びとなった際には何時か大会報告の機会を頂きたく、宜しくお願い致します。

そしてこれからの三年間奨励員として田面のアキレス腱でもある「融和と共生」に微力ではありますがが尽力出来るよう自身最後のもうひと踏ん張りだと思っています。

「乱筆乍ら乞うご期待あれ」

「施設見学が盛んな わが町の人のつながり」

旧四中地区・日吉町一丁目奨励員

佐藤 睦美

日吉町一丁目では年に一回、生涯学習施設見学として日帰りバス旅行に出掛けております。一昨年は黒部ダム、昨年は偕楽園と袋田の滝に出掛けました。五歳から九十歳の方までの参加がありました。今年は燕三条、寺泊方面に出掛ける予定となっております。



袋田の滝

他には、男性のみだった「青年会」が二年前に「日吉町一丁目会」へと老若男女の会に変更となり、こちらでも日帰りバス旅行を行っております。昨年の行き先は志賀高原と万座温泉、新潟の城跡巡り（春日山城、高田城）でした。今年の行き先は那須高原の予定です。

さまざまなイベントで世代交流

町内のお祭りは、コロナ前は八月に夏祭りを行っていましたが、二年前より十月中旬の秋祭りに変更となりました。焼きそば、カレー、ビール、ソフトドリンクを始めとするたくさんの飲食物の提供やビンゴ大会が行われます。また、子ども神輿が町内を練り歩き、賑やかなものとなっております。

町内の群馬県民会館東側に「日吉町一

号公園」があり、三月には美しい河津桜が咲き、その頃に観桜会が開かれます。こちらでも秋祭り同様、飲食物が振る舞われ、たくさんの町民が和気あいあいとお花見をします。初夏と初秋にはグラウンドゴルフ大会が開かれ、賞品目指して盛り上がりします。

その日吉町一号公園では、月一回日曜日の朝八時より町民による公園清掃を行っております。組長を始めとする役員の方々のもとより、最近では小学生の参加が目立ちます。そのような町内での異世代交流は大変喜ばしいことだと考えております。

今後とも親睦や様々な学びの場がある町であるといいな、と考えております。

「上青梨子町の伝統行事継承、 楽しく暮らしやすく」

清里地区・上青梨子町奨励員

蜂巣 崇彦

前橋市上青梨子町は、前橋市の西端に耳たぶのように飛び出ている清里地区のほぼ真ん中に位置しており、田園風景が広がり、四季折々の景観を楽しむことができるエリアです。上青梨子町には、自治会長を委員長とする上青梨子町生涯学習推進委員会という組織があり、生涯学習委員は事務局長として参加し、地域の伝統行事の継承、地域住民の交流活動など様々な活動を行っています。

大きな行事は、納涼祭（夏祭り、八月）、秋祭り（十月）、庚申待ち文化祭（二月）の三つです。

夏祭りでは、市の伝統芸能の「上青梨子町盆踊り」、子どもたちによる「子ども八木節」。楽しい「ミニコンサート」、豪華景品の「抽選会」などが行われます。秋祭は「式典」に始まり、伝統の「百万遍」、「樽神輿」、「アトラクション」が行われます。「百万遍」というのは、桐の丸い球一〇八個を太い縄に通したものを、みんなで輪になって座って「ナンマイダーブツ、ナンマイダー」といって回すもので、幸福と厄除けを祈ります。焼きまんじゅうや焼きそばも楽しみの一つです。

庚申待ち文化祭では、最初に庚申様にお参りし、みんなで会食しながらの舞台芸能発表、展示発表、ゲームなどのアトラクションを楽しみます。

最近では、コロナ禍での行事中止もありましたが、現在は復活しています。実施方法や内容は時代の流れの中で少しずつかわることもあり、令和七年度自治会で、夏祭りと秋祭りは隔年開催が決定されました。上青梨子町も少しずつ変化していますが、楽しく暮らしやすいまちづくりを目指しています。

「近頃の町内の動向」

コロナ前に徐々に復活

桂萱地区・亀泉町奨励員

吉岡 一男

わが町は世帯数五百余り、人口千三百人余りの中規模の町で、亀泉霊園や県立心臓血管センターがあります。

わが町は日ごろの交流を通じて結束が

強く、桂萱地区市民運動会で毎年優勝争いをする等の成果を上げていました。また、いろいろな行事も盛んでしたが、コロナ禍のためにことごとく中止になりました。わずかに、私の属する広報部が広報誌「亀泉町だより」を発行したり、グラウンド・ゴルフ大会や子ども育成会の一部の活動のみが続けられました。

しかしコロナ禍の影響が収まり、いろいろな活動が再開されました。たとえば、令和四年、他の自治会の多くが町内納涼祭の開催を見送った中で、例年よりも小規模ながら、時間を二時間と短縮して開かれました。そして令和五年からは本格的な規模で開催されました。同じ年には新年互例会や餅つき大会も再開され、令和六年には自治会総会も再開されました。また、令和四年からは、桂萱小学校の運動会が再開され、高齢者向けに講演・演奏やレクリエーションを行う『ふれあいサロン亀泉』もまた始まりました。また、同じ年からは、マスク付との制限下ではありましたが、町内グラウンドゴルフ大会などの屋外でのスポーツ大会や桂萱地区のスマイルボーリング大会やソフボール大会などの屋内での大会も再開されました。

さらに令和四年度には、「亀泉町だより」の印刷を担当されている江原誠一氏が「亀泉ウクレレサークル」を立ち上げられ、令和五年度にはシニア女性コーラスグループが発足するなど、新たな活動も始まり、我が町内は活気を呈す。

「地域に学び、地域に帰る」

「生涯学習の志」

改めて考える生涯学習制度

講師 熊倉 浩靖 先生

五月二〇日の前奨連総会に併せて講演会が行われました。

「地域に学び、地域に帰る 生涯学習の志」と題し、熊倉浩靖先生の講演を拝聴しました。

熊倉先生は高崎市出身。シンクタンク勤務を経て群馬学センター副センター長、群馬県立女子大学教授を歴任し、現在は高崎商科大学特任教授、NPO群馬代表理事、一般社団法人世界文化遺産地域連携会理事などとして活躍されています。

最初に生涯学習と社会教育の本質、それが地域づくりとどう結びつくかについて、法制度や歴史的背景を交えて解説されました。



講演会の様子

日本における生涯学習・社会教育の原点

社会教育は日本の生涯学習の基盤であり、公民館はその中心的な施設で市町村が設置し、地域住民の教養向上、文化振興、福祉推進に寄与する場。そして「民主主義の学校」として戦後の地域再建に重要な役割を果たしてきました。

人間の可能性を導き出し

生涯を通しての活動

ユネスコが提唱した生涯学習という考え方は、ポール ラングランが一九六五年に教育は従来のように成人になるための準備として捉える考え方を改め、人間の可能性を導き出す生涯を通しての活動としてとらえる「永続的教育」の概念を提唱しましたが、日本のとらえ方は生涯学習を新たな実技講習と理解をしました。しかし戦後公民館を一つの小学校を運営できる地域に設置したことが、本来のユネスコの提唱に戻せたのです。

地域活性化のための人材育成

実践事例として、富岡市の富岡学や玉村町の事例を紹介しました。

富岡学は、市民が地域の誇りや課題を自らの言葉で語り研究し、富岡の魅力を広め地域活性化のための人を育むことや、玉村町での事例では地域の歴史的建造物が「公民館的役割」を果たす新たなモデルを紹介しました。

国際的な評価と世界寺子屋運動では日本の公民館活動はユネスコから高く評価されており、世界寺子屋運動ではそのモデルが発展途上国の教育支援に活用されているそうです。

地域づくりと生涯学習の融合

地域の持続的発展には人と人とのつながりが不可欠です。公民館を中心に地域福祉、防災、文化活動を統合した拠点づくりが進行中です。

若者や移住者の参加を促し、多世代が共に学び合う地域社会の構築が重要です。

最後に会場から以下のような質問をいただきました。

- 情報共有の仕組みづくりの提案
- 地域活動への参加意識の低さに対する悩み
- 生涯学習は人づくりなのか、地域づくりなのか。

人との結びつきが地域の継続的な発展

熊倉先生は「楽しみながら地域を知ること」が活動の第一歩。生涯学習奨励員は地区地域づくり協議会を牽引する主体です。学びのない地域づくりはマンネリ化。生涯学習の志を「地域に学び、地域に帰る」と言うことを持つて、人としての成長、奨励員の人生や生き方の再発見、再評価があつて地域の人達との結びつきが地域の継続的な発展につながる、と結びました。

(前奨連 副会長 中山洋子)

あゆみ (4月～7月)

Ⅱ 主要事項

- 4・5 ■総務委員会▼理事会対応案件
- 4・15 ■第1回理事会▼7年度事業・予算等総会関連▼7年度総会・研修会関連
- 5・20 ■生涯学習奨励員委嘱状交付式・退任奨励員感謝状贈呈式、7年度総会および研修会
- 6・10 ■総務委員会▼フェスティバル開催方針
- 7・16 ■第2回理事会▼フェスティバル具体的実施内容関連
- 生涯学習フェスティバル2025第1回代表者会議▼行事開催計画(8月30日開催)
- 7・22 ■総務委員会(臨時)▼フェスティバル進捗状況確認